

# 無敵の姫騎士が ドMに目覚めたようです

酒井仁

挿絵／池田靖宏



あとみっく文庫／PDF立ち読み版

# CHARACTERS

WITCH



✱パセラ・アンクルス

子供の頃から共に育ってきた、ローゼリアの従者。物事を事務的にそつなくこなす切れ者。

PRINCESS  
KNIGHT



✱ローゼリア・フロンケット

フロリアナ王国王家の第十三王女。類い稀な剣の腕を持ち、これまで数多の魔物を打ち倒してきたが、相手になる敵がないため退屈を持って余している。



✱バーゼル

先代魔王の頃から、執事としてベテルギウスに付き従う高位魔族。

BUTLER



✱イアン・ベテルギウス  
かつて魔族を率いていた伝説の魔王、ベテルギウスの一人息子。恐ろしく強大な魔力を持つ。

DARK  
LORD

「あふうう……ッッ！」

神経の密集したクリトリスもだが、膣を吸い上げられるのが特に気持ちいい。

内臓が吸い出されるような錯覚と共に腰にずしんと衝撃が伝わり、両脚が勝手に痙攣してしまふ。

二十名弱もいる盗賊集団たちが、交代でローゼリアの股間に吸いついては、蜜を啜り上げるという淫らな宴会が始まってしまふ。

「おおおつ、姉御の蜜すげええ、ちんぽが爆発しそうだ！」

「ひっひひ、もうま〇こも蜜とよだれでべっちょべちよだぜ」

（はあ、はあ……アソコが痺れすぎて感覚がなくなってきました。けれど、この恥辱に屈することなく乗り越えてなくては）

このままだと、盗賊たち二十名あまりに輪姦されてしまふかもしれない。

そう、騎士は身を汚されるだけでなく、耐えがたき痛みや苦勞を知らねばならない。ローゼリアはいままさに試練に晒される自分に酔いしれる。

「の、望むところですわ。あなた方に何をされても、わたくしは負けません。好きにだけわたくしをいたぶり、辱めなさい！」

凜々しい姫騎士の宣言に、乙女の蜜に酔いしれていた男たちは虚をつかれたような顔になり、そのあとにんまりと残忍な笑みを浮かべた。

「なんだ、今度はとんでもないことを言い出したぜ、この姉御は」

「騎士は、いかなる屈辱にもめげぬもの。苦難を乗り越えることこそわたくしの使命なのです。どうしました、まさか怖じ気づいたのですか？」

「そ、そういうことなら仕方がねえ！ 極上のま〇こ汁をご馳走してもらったオレたちが、姉御を成長させてやるぜえええっつ」

「きやんっ？」

まんぐり返しの体勢から一転、くるりと騎士の肢体がひっくり返される。

腰骨をぐいっと持ち上げられ、取らされたのは四つんばいの獣の姿勢。白い桃のような姫騎士のヒップに、思いきり平手が叩きつけられた。

びしゃあああんっつ。

「きやあううんっ？」

「そらっ、そらそら、おまけにもうイッパツだ！」

「ははは、真っ白な尻に紅葉が咲いたぜ」

甲高い音が立つたびに尻肉がふるふる震え、真っ赤な手形が残る。

音は派手だが男にはスパンキングの才能があるのか、痛みはそれほどでもない。

だが大勢の男たちに見られながら尻叩きをされるといふ恥辱に、ローゼリアの顔が真っ赤になる。

「ひふ、ふうう……んくうんツツ！ そ、そんなに、生ぬるい、試練など、まったく効かな……ひいいんつ！ もつと、力を込めてツツ、お打ちなさいツツツ！」

「自分からお仕置きをねだるようなつ、恥知らずの騎士さまにはツ、百叩きがお似合いだぜえつ」

「ひつ、あううんつ、はひやううつ。ま、まだまだツ、この程度の試練、撫でられたようなものですわ」

「今度は自分から尻を振り出したぜ。そのふしだらなお口には栓でもしておくか。顔上げな、顔を！」

「えっ？ むぐ、ふぐうう……つ」

金髪を掴んで上げさせた顔に、ぐいと醜い肉棒が突きつけられる。

反り返った先端を手で押し下げて唇にねじ込むと、男は一気に根本まで騎士の喉を犯した。

「んぐ、ぐ、うう………」

仲間の怒声を完全無視し、男はローゼの髪を掴み上げてなおも深々と喉を突く。

口中いっぱいに押し込まれた牡肉で息が詰まる。よだれがダラダラと垂れ落ち、形のない鼻から唾液が逆流して噴きこぼれる。

（く、苦しい……ツツ。でも、これでこそ試練、苦難です）

喉を犯される間も、尻叩きは一瞬たりともやみはしない。

他の男たちも叩きたがって、交代で尻叩きに熱中する始末だ。

中には加減のできない輩もいて、尻肉がじんじん痺れてくる。喉を犯す男の動きも激しくなってきた、気が遠くなりそうだ。

「おお……そろそろ出そうだ。魔物のじゃなく、人間の男の精液の味を教えてやるぜ」

「んぐ、んふうう、うふう〜!!」

どびゅっ！　びゆるっ、びゆる、どく、どくっ……………。

喉のいちばん深いところで、男の茎がはじける。

臭くてしょっぱい白濁が喉粘膜にぶつかり、食道を灼きながら胃に滑り落ちていく。

（ちんぽのお汁……猿人の味にそっくりで、喉に貼りついてくるわ。あつ、また別のちんぽが）

ローゼリアにザーメンを飲ませて満足げな男を押しつけ、別の盗賊がペニスを突き出してくる。

ろくに洗ってなくて異臭を放つそれを、騎士は自分から口を開けてくわえ込む。

猿人のような野性味は薄いのが、逆に人間の男根をしやぶらされているという感じがして、恥ずかしさに背筋がゾクゾクした。

「いいぞ、もっと舌を絡めてみな。そうそう……」

「えうう、臭くて、不味くて、気持ち悪い……これは試練ですわよね？」

「ああその通りさ。こうすればもつといい試練になるぞ」

男は形のいい鼻梁をつまみ上げ、ぐいぐいと亀頭で喉奥を突く。

何度もえずき、ごふつと唾液を垂れ流す苦しさにローゼリアは身を任せる。

彼らはローゼが求めているモノを理解し、それを与えてくれる。尻叩き以外の刺激が欲しいと思ひ、騎士は物欲しげに腰をくねらせた。

（どうして……アソコが疼いておかしくなりそう。もしこんな状態でちんぽを入れられでもしたら、わたくし本当にどうにかなくなってしまいます……！）

「おい、こんなじゃいつまで経っても埒が明かねえよ。早く姫さんのま○こを可愛がつてやろうぜ」

「そうだな、姐さんもいい具合に発情してるみたいだし、ちんぽ突っ込んだだけで気持ちよすぎて壊れちまうんじゃないか」

「気持ちよすぎて脳みそぶつとんじまうぜ」

「いけません、そのような汚らわし……むぐうっ」

拒絶の言葉を口にしかけると、口を塞ぐように勃起した陰茎をくわえさせられる。

（ああ、ダメよ。ちんぽを入れられたりしたら、気持ちよくなってしまうかも。わたくしは恥辱を受けてそれに耐えなければいけないのに）

しかしイチモツをおつ立てたケダモノどもは、ローゼリアの処女膜を突き破らずにはいられないほど興奮している。

騎士は髪を振り乱して自ら尻を広げ、懸命に訴えた。

「だめですつ！ そんなじゃなくてもつと痛くて辛い目に遭わないと、試練にならないじやないですかつっ」

「そ、そうだ……そ、そいつを傷物にしたら、買い取つてやらんぞ、この穀潰しの山賊ども!!」

「なんだ人買いの旦那、気がついたのかい」

毒酒を飲んで昏倒していた人買いが、ぶるぶる痙攣しながら顔だけ上げていた。

毒をあおつてまだ商売にこだわるとは天晴れな外道である。

「そうは言つても、ここまできてま〇こを味わわないなんてできるかよ。ま〇こがダメならケツの穴でも使うか？」

「そ……それなら、いいぞつ。尻を調教して初物を残しておいてくれれば、高級奴隷の三、いや五倍の値でその女を買い取つてやる！」

人買いの買い取り価格がどれほどのものかローゼには見当もつかないが、山賊たちの目の色が明らかに変わった。

急に銭金への執着が生まれ、彼らの面構えをさらに品のないものにする。獸欲と金錢欲



にまみれた目を姫騎士の尻に向けてほくそ笑む。

「それならありかもしれねえな。口とケツだけでも味わえるなら御の字だ」

「ああ、この姉御といえども、ケツ処女を奪われるのはさぞ苦痛だろうしな。これで三方損なしで万事解決ってわけだ」

ケツだけに、とどうでもいいことを付け足して、イチモツを勃起させた盗賊がやおらぐいっと騎士の尻を押し開く。

「喜びなよ姉御、あんたの望み通り、辛くて苦しい目に遭わせてやるよ」

「そ、そうなのですか？ それならせひ………つて、ひゃああううっ!! ど、どこを舐めてるのですかっ」

男が口を押し当てたのは、無論ローゼリアの尻の穴。

口に含んだ唾液を塗りつけるように舌をくねらせ、蕾のようにすぼんだアヌスを揉みほぐしていく。

「んんっ、こいつは上物のケツ穴だ。騎士の姫さまは普段何を食ってるんだ？ 花みたくない香りがあるぜ」

「そっ、そんな……や、やめッ、そんなことおやめなさいッッ！」

「じゅるっ、いくら痛い目に遭いたいからって、ちよつとはほぐしておかないとケツ穴が切れちまうぞ。このデカちんぽをぶち込むんだからな」

（えええつ、ち、ちんぽをこんなところに!!　なななんて突拍子もないことを言い出すのかしら!!　ほ、本気なのかしら）

もちろんのこと、姫騎士のポキキャブラリーに「アナルセックス」などというものは存在しない。

だが、彼らは本気だ。排泄に使う恥ずかしい穴に陰茎を挿入することで、擬似的なまぐわいをしようとしているのだ。

「くつくつく、ケツ穴がいい具合にほぐれてきたぜ。ぷにぷにしてらあ」

（は、恥ずかしい……!!　不浄の穴を舐め回されてるのに、わたくしなんだか気持ちいいような気が……これも、これも試練なの?）

だがどうすることもできず、黙って男の舌に身を任せるしかない。

それから何人かの男が交代で騎士の肛門を舐めてほぐしていると、尻穴が軽く痺れてくる。

羞恥心も幾分和らいだ状態で目の前の陰茎をぺろぺろしゃぶっていると、「ようし、そろそろいいだろう」と男が言った。

「ぶち込むぜ、騎士の姐さん。痛くても我慢しろよ、これは試練とやらなんだからな」

「お、お好きにすればよろしくてよ………いっ!　んいいい……っ?」

ほぐされた排泄口に熱くて硬いモノがあてがわれた。

次の瞬間、まぶた 瞼の裏で星が瞬くほどの衝撃、そして尻肉を無理矢理押し広げられる激痛が走る。

前に逃れようとしたが、すかさず男の手が骨盤を抱きかかえて引き寄せる。

「ひいいいつ、いた、いたい、痛いですッ。あううう、は、入ってくる……ウツ」

「なんて締めつけた、ちんぼがちぎれそうだ……おら、もっと力を抜けッ」

ぴしゃり、と尻をピンタされて一瞬だが力が抜ける。その間隙について、灼熱の肉棒がめりりと深く打ち込まれる。

「い……んぐ、う………ッッ」

「もう半分以上入ったぜ、姐さん。盗賊風情にケツ穴を捧げられて、たいした試練だろう、ああ？」

男は括約筋の締めつけを愉しみながら、さらに騎士の腰を抱き寄せる。

めりっ、むりむり……っ。

排泄のための穴に、逆に異物が押し込まれる不快感と違和感で、ローゼリアは頭がおかしくなりそうだ。

（た、確かにこれは試練だわっ。お腹の奥が気持ち悪い、吐き気が……ああ、いまちんぼをお口に突っ込まれたら）

「それだけじゃ物足りないだろう、上の口でも試練を味わいなッッ」

「うぐううつ、おふううつ、えふ、うううツツ」

四つんばいで尻を犯される姫騎士の唇に、再びペニスが突っ込まれる。

猛烈な嘔吐感と共に精液混じりの胃液が逆流し、ぼとぼと口の端から噴きこぼれる。

そこに強引に陰茎をねじ込み、前後からローゼリアを陵辱にかかる。

「満足かい、騎士さま？ こんなもんが試練になるとはオレには思えねえんだが、まあしようがねえよな、あんたがしてくれって言っただから。そらつ、喉の奥までぶち抜いてやるぜっ」

「んむ、むふうううううツツ。ぐうふうう」

陰茎の動きがはつきりわかるほどに、ローゼの喉が上下する。尻穴に挿入した山賊も徐々に腰を小刻みに動かし始める。

「んむ、ぷはっ!! そんなツ、お尻にちんぽツツ、あああ出し入れされてるツツ！」

「すげえつ、この尻穴すげえ！ 締まりがいいだけじゃなく、奥の方がうねうね動いてあったけえ、チクシヨウ、もう出ちまいそうだ」

「とつとと交代してくれよ。オレまだま〇こを舐めただけなんだ」

「焦るなよ、騎士さまのお望みなんだ、じっくりこいつのケツ穴を教育してやろうぜ。処女のまま、ケツで感じまくる変態騎士さまにな」

「それでこいつを高値で売り払えば、明日から当分遊んで暮らせるってもんだ！ 騎士さ



いまや半透明の青い魔物はわらわらと女体に群がり、融合し、一匹の超巨大なスライムに変貌を遂げようとしていた。

「あんっ、く、くすぐったい」

ふと、股間にむず痒さを感じると、なんと鎧の下のショーツが溶かされかけている。

華々しい戦闘の歴史を刻んできた姫騎士は知らなかったが、こうやって融合するのはスライムの補食行動。文字通り、ローゼリアはいま巨大スライムに補食され、美味しくいだかれようとしているのだ。

（あー、お腹苦しい。ここはひとまず体勢を立て直して……ツツ!!）

手足を包み込んでいる青いゼリーをふりほどいて立ち上がろうとする。

ぐっ、と足に力を込めて踏ん張ろうとした、そのとき。騎士の口から「ふわわわっ？」と驚いた声が漏れ、かくんと膝が折れる。

「ひゃ……お、お尻はらめえツツ!」

スライムが尻の割れ目に潜り込んで、アヌスをつんつんついついている。

知能の低いゼリーモンスターに騎士を髑る知恵があるわけではない。

沼ヒル同様、アヌスに有機物を認め、それを餌にすべく触腕を伸ばしてきたのだ。

「や、はんっ、お、お尻こじ開けられる………ツツ」

軟体ボディの一部の密度を上げること、スライムは乙女の尻穴をぐりぐりとの的確にほ

じつてくる。

(ああつ、盗賊たちにさんざん鬪られたお尻が、疼いちゃうウツ)

ごりつ、ごりごりつ。

尻穴の皺の一つ一つ、腸壁のひだの一つ一つを丹念に舐め回すように擦り立てられ、ローゼリアは快美の声を漏らさずにはいられない。

「あうう、そんなふうに擦られたら、ん、くふううん……っ！」

自分で弄るだけでも快感を感じるようになった菊門は、乱暴に扱われるほどにぞくぞくする愉悅が込み上げ、頭の奥に灯をともし。

直腸の奥にまで達した触腕がごつごつと下腹を突き上げる苦しみさえも、倒錯的な快楽となつてローゼの心をとろかしにかかる。

「ふあああつ、お、奥まで入つてくるううッ！ ふあうつ、ま、ま、前はダメ、だめですうううッッッ」

騎士の股ぐらを保護するものはなきに等しい。

スライムのぶよぶよした身体は乙女の美貝にもびつたりと貼りついて、蜜にまみれたヴァギナにも侵入しようとする。

だが幸か不幸かスライムは尻姦ほどには腔に興味を示さず、腔の入り口でぬめぬめと蠢くに留まっている。

(こ、こんなんじゃ、試練にはぜんっぜん物足りません！ 例えばもつと硬くてごつごつしたものでめちゃくちゃに擦られるとか、それくらいではないと……ッツ)  
脱出することも忘れ、ついそんなことを考えてしまう。

スライムがどんどん全身を覆い始めているというのに、姫騎士はうっとり目を潤ませ、自ら愛撫を欲するように股を広げる。

「ああもうっ！ その程度ではちつとも効きませんッ。このっ、前のところに試練を与えなさいッ、わたくしは見事耐えてみせます！」

神経の集中したクリトリスは硬くしこり、突き刺すような快感を伝えてくる。

しかし、弾力のあるスライムの身体では刺激がやはり物足りなく、もどかしくて仕方がない。ローゼリアはあくまでも「恥辱に打ち勝つため」と自分に言い聞かせながら下腹部を突き出し、腰をくねらせてスライムを誘う。

「あ、あら。そういえばこんなところにこんなものが……」

すっかりスライムボディに埋もれた棍棒の存在を思い出す。

「クツ、わたくしの武器を奪い取って、それでわたくしを辱めようというのですね？」  
もちろん、原始的な知能しか持たないゼリーは返事をしはしない。

だが、もはや騎士の目には棍棒を使い、騎士に辱めを与える悪逆非道の魔物しか映っていない。



「や、やりたいなら存分におやりなさい！ その程度でわたくしの鉄の意志は屈服したりはしなくてよ」

「試練の棍棒」——ただの太い棒きれが股間に近づいてくる。

実際は無意識にローゼリアが腰をそちらに向けているのだが、騎士の瞳は正義の輝きとほんのちよっぴりの期待感に満ちている。

「んっ！ くう、ああああっっ！！」

ごりりっ。硬い棍棒を股間に押し当てた瞬間、女体が跳ねる。

棍棒といつても木材を粗く削り出しただけの代物。節くれ立った凸凹の部分で花びらを強く摩擦するだけで、花卉がひしゃげ、押し潰された淫豆からは火花が飛び散るような衝撃が背筋に貫き走る。

「は、ひい……ッ。ひんっ、ひく、ひぐうう……」

いつの間にか騎士は両手でしつかり柄の部分握り、得物を小刻みに揺する。

「ま、負けせんわッ。こ、このような、屈辱になど……さあ、いくらでもわたくしのお股を攻撃してきなさいッッ！」

鬪られる花びらが熱く燃え、膣穴からじゅわりと蜜がこぼれる。クリトリスの包皮を「ごりんっ」と剥くと同時に、女体がわななく。

（お、おま〇こ……盗賊さんはここをそう呼んでいましたわ。おま〇こ……お尻の穴に負

けないくらい、弄れば弄るほど疼いてくる……ッ！ 身体中が熱い、ちくちくする……頭  
の奥が痺れて、ヘンになりそうッツ！

スライムに尻穴をほじられ、棍棒で女芯を擦る女騎士の身体は、もうほとんど水色の半  
透明ゼリーに飲み込まれている。

ひんやりしていたスライムはローゼの体温で生暖かくなっている。さつきから感じてい  
る皮膚のちくちく感は消化酵素が分泌されている証拠だ。

スライムはすでに皮膚の表面を消化し始めている。そんなことにも気づかず、女騎士は  
毛穴に染み込んでくる消化液の刺激さえも心地よく感じてしまう。

「はあ、はあ、はあ……け、汚らわしい魔物の体液が、肌から染み込んでくる……ッ。こ  
の程度、どうということも……ごぶふっ!？」

うっとりとして身体を傾けた姫騎士が、突如呼吸困難に襲われてもがく。

スライムの軟体の身体に顔が沈んでしまったのだ。

十数匹の陸上クラゲどもは融合し、直径二メートルもある水風船となつてローゼリアを  
すつかり飲み込んでいる。

「! ! ? ! ? ! ……ごぼっ、ぷはああアツツ。あぶ、あふっ、げほ、げへっ」

スライムに溺れた女騎士は必死にもがき、顔だけを体表に突き出す。

必死に呼吸を整えるが、ぶよぶよのゼリーの中で足をすべらせ、また魔物の中に沈む。



（く、苦しいですツツ。息ができない……ふわふわして、あ、足がつかない!!）

魔物の体内で溺れるのは、ちよつとしたホラーだった。

水の中であれば泳ぐこともできるが、弾力のあるスライムの中では思うように手足が動かせず、立っていることすら困難だ。

「がばっ！ けほっ、けほ、ごほっ、ぶわ、ぐふっ」

もがいてもがいてようやく顔を出す。だがほんの少し呼吸をただけですぐ体勢を崩し、また魔物の中に埋没してしまう。

そんなことを何度も繰り返すうちに、呼吸困難で気が遠くなってくる。

しかもその間も尻穴に突き刺さった魔物の触腕はうねうねと騎士の直腸をえぐり、前の穴を怪しくまさぐってくる。全身の薄皮がじわじわと溶かされて、消化酵素の分泌がいよいよ増えてくる。

（わたくし……本当に大ピンチかも。息ができなくて頭がガンガンする。目の前が朦朧と  
なって、手足にも力が入らない……）

だが、不思議とこの状況に恐怖は感じない。

むしろ酸素欠乏のために意識がふわふわと、宙を浮いているような心持ちだ。

これまでも進んで試練を受けてきたローゼリアだが、これほどの無力感を感じたのは初めてかもしれない。

（しかも最弱のスライムを相手に、手も足も出ないなんて……とても惨め、とっても情けないです……ッ）

そう思いつつも、姫騎士の顔はスライムの中で緩んでいく。

酸欠で失神寸前、苦しいのに、苦しくない。意識は薄れていくが、逆に皮膚が鋭敏になり、身体がどんなふうに感じているのかが鮮明に感じられる。

（わたくし、ずっとこのままなのかしら。魔物の森で人知れず、最弱のスライムに捕らえられたまま、鬪り者にされて……）

ごぼつ、と魔物の中で口を開けると大きな気泡がこぼれ出る。

ぶよぶよしたゼリーが口や鼻から入ってきて、ローゼリアはいよいよ呼吸困難に陥って意識が遠のいていく。

それがわかっていのに、どうすることもできない。

（ああ、息ができない……気が遠くなっていく。なのに、お尻の中でスライムが動いているのだけがわかる。お尻を犯される感覚だけを感じながら、わたくしはいつまでもいつまでも、永遠にこの快楽の中に居続けるのね）

かろうじて棍棒を握っていた右手から、力が抜ける。

（でも……これが試練なのですね。わたくしの、未熟さ……ゆえに、このような目に遭わされているの……だから自業、自得……ですわ……）

「ふああ、あつ。おっぱい感じるう。感じすぎて、くううん、お乳吸われながら、い、い、イッチャウウウウッッッ！」

ぶしやあああつ。

勢いよく噴き出した甘い液体を飲みきれず、石像の顔がびしょ濡れになる。

それでもむしやぶりついてくる石像の底知れぬ欲望に晒されながら、ローゼリアは授乳の快楽に飲み込まれ、昇天した。

「ああ………わたくし、乳首で、イッチャいます………ツツツ」

びくん、びくんびくんっ。石像に抱きついたまま、姫騎士はエクスタシーの痙攣を繰り返す。

「はあ、はあ………はあ、んっ」

ようやく呼吸を整えたころ、騎士の乳房は元の大きさに戻っていた。

石像の腹部はパンパンに膨れ、搾り取った母乳の量を示している。

がこん、と石像のある部分の床が凹んだ。がりがり機械の動くような音が壁の向こうで響き、ゆつくりと扉が左右に開いていく。

「こ、こういう仕掛けだったのね。それにしてもこの石像はいつたい……」

石像の台座に文字のようなものが書かれているが、ローゼリアには読めない。しようがないので石像の脇を通り、先に進むことにする。

「さて、お次はどんな試練が待ち構えているのかしら」

一部始終をずっと見守っていたイアンだけは、その文字を解読することができた。

玉座に拘束されたまま、少年はほとほと呆れ果てた顔でぼつりとつぶやいた。

「母乳の出にくいお母さんでも安心、魔界印の搾乳ミルクタンク人形……なんでそんなもんがトラップ部屋にあるんだよおおおっつ」

それにしても、と玉座の魔王は首を傾げざるを得ない。

「あの女勇者は、どうして戻ってきたんだろう。どうしてわざとトラップの部屋に入ってしまったりするんだろう？」

女騎士はその後も次々とトラップゾーンに足を踏み入れ、その都度罠にかかってはそれを突破している。

（肝心のトラップがごとごとく整備不良なだけだね……）

降ってくるはずの岩石は小さな軽石、溶岩の海はほどよい温度の温泉だったりするので、勇者はその罠に律儀に引っかかってくれる。

いまま骨まで溶かす腐食溶液を浴びたはずなのだが、腐食液は長年の放置でただの酸っぱい汁に変質してしまったようだ。

「やあくん、お漬け物になった気分ですわ〜」

美しい金髪から酸っぱい漬け物汁を滴らせながら嘆く騎士に対し、少年はなんだか申し訳ない気分になってくる。

と同時に、ますます勇者の意図がわからなくなり、不安が胸に満ちてくるのを感じる。

（この城の罠なんか少しも恐れてないのかもしれない、でなけりゃわざわざ戻ってきて、自分から罠にかかるうとしないはずだ。あの勇者なら、罠が完璧に作動していても傷一つ負わずに突破していたかもしれない）

そう考えて、ゾツとした。

「あのキバが敗北を認めたほどの勇者なんだ、自分の実力をボクに見せつけているに違いない。抵抗しても無駄だつて言ってるんだ……！」

そう考えれば勇者の行動も頷ける。あの女勇者がいったいどれほどの実力を秘めているのか、イアンは恐ろしくなってきた。

（魔力ではボクは誰にも脅威を感じたことはない。魔王を継ぐのは正直乗り気じゃなかったけど、ボクより弱い魔物に魔王を名乗らせるよりは、つて思ったからバーゼルに「やる」つて言ったんだ）

イボイノシシの魔物・キバを前にしたときも、彼の強さを認めこそすれ、怖れを感じるほどではなかったのだ。

その自分がいま、ただの人間に得体の知れない恐怖を覚えている。



（魔力も持っていない人間なんか……いや、これまで魔法を使っただけで、本当はすごい魔力を持っているのかもしれないぞ）

人間の中にも稀に強い魔力を持つ者が生まれる。

ときには魔族を凌ぐ才能に恵まれた人間も生まれると聞く。あの勇者がそうでないとなぜ言いきれるのか。

（勇者が魔法を使わないのは使えないからじゃなく、「使うまでもない」というだけだったとしたら？）

「つて、そうこうしてる間にまた部屋を突破したぞ。玉座の間までもう少しじゃないか！ こうしちゃいられないぞ……」

少年魔王は触手を外そうともがき始める。触手に魔力を封じられているものの、力いっぱい引つ張ると少しづつだが縛めが緩んでいく。

（……けど、本当に勝てるのか、ボクは勇者に？）

いかに強大な魔力を持っていても、自分には戦闘の経験が乏しい。

魔力任せの攻撃はできるが、剣などはからつきしだ。勇者に魔法攻撃が通用しなかった場合、状況は圧倒的に不利だ。

（ええい、敵いそうになかったら逃げちゃえばいいや。とにかくこの触手を）

猛然とイアンがもがき続ける間にも、姫騎士ローゼリアはまもなく最後のトラップゾー

ンに入ろうとしていた。

「ふう、あの石像の部屋でお胸が大きくなったときに金具が壊れてしまったみたいだわ。胸当てがすぐに外れておっぱいがこぼれちゃう」

片手で胸を押さえる姫騎士の股間も丸出し状態のまま涼しくしてしょうがない。

試練を受けるのはいいが、このままではいざ魔王の前に登場してもちよつとした衝撃で半裸になってしまいそうだ。

「もうかなり城の最奥部まで来たはず。魔王の前でおっぱいもお尻も丸見えだなんて、騎士にあるまじき格好ですわ」

いよいよ気を引き締めていかなければと思いつつ、次の部屋に入ったローゼリアの歩がびたりと止まる。

（これは……！ 無数の魔物の気です、それもかなり強力な）

邪気こそ感じられないものの、魔物の力を強く感じる。

四方の壁から押し寄せる気配に圧倒されそうになる。石壁の向こうに待ち構えているに違いない。慎重に部屋の中央に近づいて――。

ばっんっ。

「きゃああんっ!？」

白い巨乳がぼろんとこぼれ出たのと、何重何百の紐状のものが襲ってきたのはほぼ同時だった。

（しまつ、咄嗟におっぱいを庇ってしまいました……！）

刹那の隙をついて、細長い触手が騎士の手足に絡みついてくる。

「くっ！ ほ、ほどけない……それにすごい力！」

ふりほどこうと力を込めるほどに強靱な触手が絡みついてくる。

しかもよく訓練されているらしく、紐状の魔物はまず騎士の両手の自由を奪い、続けて両下肢をしつかり床に固定してしまう。

女騎士の太腿や腰に、ぬるぬるした肉の紐が巻きついて締め上げる。

「うあうつ、お、おっぱいにまで……ひやあん、乳首引つ張ってはダメえっ」

ひときわ細い触手がニツプルを擽め捕り、ぎりぎりと肉に食い込んでくる。

太めの触手が肉球全体を揉むように巻きついて、いやらしい動きで乙女の胸を弄ぶ。

体液はぬるぬるして生暖かく、まるで柔肌をマッサージするようにくびれた腰を擦り立て、太腿を火照らせる。

（い、いままでの魔物とは違う？ なんとというか、その……適度な締めつけ具合とい、的確に乳首を責め立てる動きといい、と、とてもよくわかってらっしやる触手さんですわ!!）

おかしな感心をしてる間にも、魔触手は太腿のつけ根にじりじり近づいてくる。

下着を失った花弁にぎりりと食い込んでくる。粘液の下でクリトリスが押し潰され、敏感な肉芽から高圧電流のような快感が走り抜ける。

「あひ……ッッ。そこ、は……くう、これしきのこと、どんどんおやりなさいッ」

つい口先で強がりを書いてしまいが、姫騎士の唇は快感にわななく。

ダメージらしいダメージこそ受けなかったが、トラップのたびに淫らな刺激を受けて必要以上に敏感になっていたのだ。

しかも触手は容赦なくいやらしい動きで責め立ててくる。ローゼリアは為す術もなく、甘美な拷問に耐え続けることしかできない。

（い、いけない……こんな状態で凶暴な魔物に襲われたら、ひとたまりもありませんわ。こ、これは本当に大ピンチ……というか触手の動きが、気持ちよすぎて……このまま身を委ねたくなくてしまいます）

もちろんこの状況は、すべてイアンに見られていた。

いままでの間の抜けた罠とは一味違うトラップ部屋に、思わず見入ってしまった。

「もしかして、初めてのまともな魔物かも……いくらすごい勇者でも、自由に動けない状態で他の魔物に襲われればどうしようもない！　トラップとしては単純だけど効果は確実だ。よくし、ここで一気に！」

「ああッ、おっぱい締めつけられて……くふう、ま、負けないわ！」

「一気に、狂暴なモンスターが！」

「くうう、お、お股にぬるぬる、も、もつと締めつけなさいっ」

「……………」

じじっ、と微かな音と共にトラップ部屋の解説がスクリーンに現れる。

『触手魔物による侵入者拘束と、迎撃要員とのダブルトラップ。』

触手はAランクの強度を誇り、侵入者の自由を奪い、屈辱を与える。侵入者を死に至らしめることなくいたぶり、なお口を塞がないようにすることで、哀れな悲鳴を搾り取ることに特化した、特殊調教済み触手である』

「……………どうでもいいよ、そんなの…………」

『なお、侵入者にとどめを刺すための迎撃要員は、補充申請中である』

そこがいちばん重要だろう、とツツコミを入れる気にもならない。

一方ローゼリアは触手の淫らな動きに翻弄され、自分から尻を突き出し、すっかり嬲ら

れる快感に溺れている。

「はあ、はあ……そ、その程度の攻撃、生ぬるくて欠伸あくびが出ますわ。うしろ……お尻の穴まで責められたら、どうなるかはわかりませんが……！」

触手の巻きついた片足を上げ、挑発するように尻を揺らすと菊門にも肉蛇が殺到する。

もちろん前の穴にも運のいい奴が蜜をこぼす肉穴を発見し、ぬるりつと膣穴に侵入してくる。内側から乙女穴を押し広げられ、ローゼリアは金髪を振り乱して快美の喘ぎ声を迸らせる。

「あううつ、おま○こッ、おま○この奥まで届くうッッ!! んっ、そう、よッ。けれど、まだまだ……もつと激しく責められないと、き、効きませんわよッッ！」

女騎士の爪先が持ち上がり、ローゼリアは宙吊りにされた格好のまま前後の穴を触手に犯される。

ぐつちゅぐつちゅと淫らな音と共に撒き散らされるのは触手の体液、そしてローゼ自身のはしたないま○こ汁。

それを浴びた触手が悦びにのたうち回り、その振動で部屋全体が轟音に包まれる。

そして姫騎士の痴態をじつと見つめる少年魔王の身体にも、かつてない恐ろしい異変が起きかけていた。

「な、なんだよこれ!! な、なんだかおちんちんが硬く、大きくなってきた……? まさ



か、何かの呪い!？」

「あうう、おま〇こも……お尻もいつぱいッ。まだ……まだまだ、ですわ……! もつとすごい触手試練で、わたくしを屈服させてご覧なさいッツツ!!」

初めての身体の変化に少年魔王は混乱していた。

半裸で触手に嬲られる女勇者を見ているだけで、股間のはますます熱く、痛いほど膨張してくる。

右手でそこを押さえると、痛みとも快感ともつかない不思議な感覚が走り抜ける。

「ち、ちんちんが痛くてたまらない。うわあ、な、なんだこれえ! どうしよう、ボクのちんちんが呪いで腫れ上がってるよう!!」

外に取り出した勃起ペニスを見て、少年が不安な声を上げる。

年端もゆかない少年にしてはなかなか立派な陰茎が、包皮の内側からピンク色の亀頭を覗かせている。

生まれて初めての勃起にイアンは混乱し、これはきつと勇者が畏にかかった振りをして魔法攻撃を仕掛けてきたのだと思い込んだ。

(まさか、あつさり触手に捕まったのもカモフラージュ? 身動き一つできなかったはずなのに……:うわあああつ?)

「いい、いいいつ、イクいくイクウううう! おま〇こツツ、おま〇こ試練と、お尻の



穴でッ、どつちもイツチャうう!!」

びくん、びくんびくんっ。

勇者の肢体が激しく痙攣し、部屋全体が地震のように揺れる。壁にぎつしり潜んでいた触手魔物がローゼリアのエクスタシーに呼応して暴れ回っているのだ。

「さ、最初からこれが狙いだっただのか！ くそっ、やつとこつちの縛めが解けたつてのに、ううっ、ま、まともに立てない……」

玉座から立ち上がりかけた少年魔王がよろけて尻餅をつく。

勃起して重みを増した股間のイチモツのおかげでバランスを崩したのだ。

ゴゴゴゴゴゴ……地響きと共に振動が激しく、大きくなっていく。壁に亀裂が走り、イアンは立ち上がることにすらできない。

（老朽化した魔王城が、一気にバランスを失ってる！ そうか……オンボロでまともに機能しないこの城のトラップをすべて起動させることで、この城ごと崩壊させるつもりだったのか！ なんて知略なんだ!!）

その証拠に、触手に搦め捕られて悶えていた女勇者の姿がない。

部屋そのものが崩壊した拍子に、触手から解放されたのだ。自由になった姫騎士は一直線にこの玉座の間を目指している。

「はあ、はあ、はあ……なんだか辺りが騒がしいけれど、どうやらここが城のいちばん最

この続きは製品版をご購入の上、  
お楽しみください。

編集・発行

**株式会社キルタイムコミュニケーション**

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

**<http://ktcom.jp/>**

仙獄学園戦姫

ノブナガツ! comic



信長が、秀吉が、義元が、エツチにバトルにと漫画で大活躍！  
もうひとつの『仙獄学園戦姫ノブナガツ!』がここにある!!

# 待たせたら

毎月中旬  
発売!!

18歳未満の方は  
購入できません

18

漫画：老眼  
原作：斐之嘉和  
キャラクター原案：SAIPACO

戦うヒロインが屈服させられちゃうアンソロジーコミックス  
『闘神艶戯』偶数号にて連載中!

編集・発行 キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコビル TEL:03-3555-3431 (販売) FAX:03-3551-1208

<http://ktcom.jp/>

# あとみっく文庫最新刊

ちょっと大人のライトノベル / 毎月下旬ぞくぞく刊行中!! 定価/690円(税込)



「当方Mドレイ希望」  
魔界最強のプリンセスがドレイ志願!?



全国書店で  
**好評発売中**

不死の吸血姫がDoraのご主人様を募集  
しているようです  
【小説：酒井 / 挿絵：にの子】

## 思春期なアダム3

二人泣きの子猫

【小説：さかき傘 / 挿絵：天海雪乃】

全国書店で  
**好評発売中**



「…藤田君は責任取るべき」

睦月への想いに身を焦がすマキナ  
彼女は夜の教室で……!?

## 借金お嬢クリス3

令嬢はいかにして  
42兆円を返済したか?

【小説：筑摩十幸 / 挿絵：了藤誠仁】



全国書店で  
**好評発売中**

「愛するシクレット様のため、  
死んでも構いませんわー!」  
クリス、悪魔堕ち!?



### 既刊LINEUP

全国書店で好評発売中

- 仙窟守聖戦姫 / ノナガツ ①～③
- 拘束 / 帝都少女探偵団 赤い探路を駆て!
- BLANGEL 輪になって踊る悪者の夜

- 借金お嬢クリス ①～②
- プリンセスリバーシ!! 交錯する美姫と魔姫
- 無敵の姫騎士がMMに目覚めたようです

- ビルクリムメイデン ①～②
- 呪詛喰らい師【カースイーター】
- 魔界少女ルルイ・エルル



あとみっく文庫

既刊情報

## 仙獄学艶戦姫ノブナガツ!

第一次水着大戦

超能力者の少年少女たちが集う特殊な学園——西開学園、北宮学園、聖ジョウント学園。それぞれが仙獄島の覇権を求め、ちょっとHな三つ巴バトルの幕が開ける!! 平和なはずのミスコン勝負は、暗殺騒動が起きたり水着美少女が縄で緊縛されたり触手生物が現れたり、とんでもない方向に進んで——!?

小説●斐芝嘉和  
挿絵●SAIPACo.



全国書店で  
好評  
発売中

## 仙獄学艶戦姫ノブナガツ! 弐

北宮学園生徒会長選挙戦

絶対的な権力を誇る北宮学園の生徒会長の座を競い、義元、氏康、晴信ら北宮三大美女はもちろんのこと、長尾く美姫)景虎、宇佐美く奈々)定満といった新ヒロインも加わり、エッチにバトルを繰り広げる!! 敗北したヒロインは勝者の奴隷に!?

小説●斐芝嘉和  
挿絵●SAIPACo.



全国書店で  
好評  
発売中

詳しくはKTCの  
公式サイトで <http://ktcom.jp/>



**仙獄学艶戦姫ノブナガツ！参**

信玄、出陣！

北宮学園の生徒会長選挙戦も大詰め。肉欲に堕ちた義元と氏康を従えた景虎は、更なる戦力の拡大を図る。そんな中、信玄は元凶である按針を倒そうと信長に協力を求め、聖ジョウントのエリザは封印された化け物を発見する。様々な思惑が交錯する物語は佳境を迎え、信長は姦落の危機に陥るのだが!?

小説●**斐芝嘉和**  
挿絵●**SAIPACo.**



全国書店で  
**好評  
発売中**

**BLANGEL**

輪になりて踊る患者の夜

月下の街を紅に染め上げる、鮮血のサスペンスアクションの幕が上がる! 吸血姫アリシアは異形の生物「被験体」の影を追って戦い続けるが、予想もしない反撃に遭って虜囚の辱めに晒されてしまう!! 『隔月刊コミックヴァルキリー』の長期連載人気漫画が待望の小説化!

小説●**夜士郎**  
原作・挿絵●**渡瀬行人**



全国書店で  
**好評  
発売中**



あとみっく文庫

既刊情報

## 思春期なアダム

謎の少年ルシアの手で“蛇眼”の力に覚醒した藤田陸月。世界の半分を支配する秘密を秘めた彼をめぐり、天使と悪魔そして人間による争奪戦が始まった！ごく普通の少年の日常は一変し、美少女天使のエンジュや憧れの同級生伊部草マキナまで巻き込み、激しくそしてエッチに胎動する！

小説●さかき傘  
挿絵●天海雪乃



全国書店で  
好評  
発売中

## 思春期なアダム 2

背後をならう者

「世界の半分を支配する力」を秘めた“蛇眼”の持ち主として、天使たちに保護されたごく普通の少年、陸月。それでも普段通りの学園生活を送る彼の前に、新たな刺客が現れる…。天使・悪魔・人間の三つどもえのバトルはより過熱！“蛇眼”をめぐり迫り来る美女に美少女&美少年(!?)たちの誘惑で、陸月も新たな局面に…?

小説●さかき傘  
挿絵●天海雪乃



全国書店で  
好評  
発売中

詳しくはKTCの  
オフィシャルサイトで <http://ktcom.jp/>



## 借金お嬢クリス

42兆円耳を揃えて返してやりますわ

異世界の住人・ジグレットの奸計で父を失い、突如無一文となった令嬢クリス。なんとその借金額は42兆円! クリスは借金取り立てに現れた武装精霊ガーランドの力を借り、ジグレットへ借金返済の戦いを挑むことに! 果たして、傲岸不遜な令嬢はセレブな日常を取り戻し、己の貞操を守ることができるのか!?

小説●筑摩十幸

挿絵●了藤誠仁

全国書店で  
好評  
発売中

## 借金お嬢クリス2

42兆円踏み倒してやりますわ

セレブから無一文に転落したクリスは、借金を返すために今日もバイト&バトル!? 水着コンテストで痴態を晒し、工事現場で肉体労働&ガーランドからの肉体調教と、八面六臂の活躍(?)に加え、ライバルのロリ令嬢、サキも加わり、エッチ&借金バトルはより熱く燃え上がる!

小説●筑摩十幸

挿絵●了藤誠仁

全国書店で  
好評  
発売中



# コミックス同人誌版も発売中!

全国の同人誌ショップ、キルタイムコミュニケーション通販にて取り扱っております。

KTC サイト <http://ktcom.jp/>



title:

## ノブナガ繚乱!

lineup:

『明智の策略』

トキサナ

『DSの流儀』

chaccu

『生徒会長前哨戦?』

天道まさえ

title:

## 発情期なアダム

lineup:

『いつもの学園生活』 天道まさえ

『天使の誘惑』 ウメ吉

『ELECTRIC LOVE』 空木次葉



# 電子書籍版もあります!

各種ダウンロードサイトにて発売中! ※18歳未満の方は購入できません。

# キルタイムコミュニケーション オフィシャルサイト

<http://ktcom.jp/>

- ◎雑誌、コミック、小説の**通信販売**もやってるよ!
- ◎二次元ドリームマガジン・コミックアンリアル**のバックナンバー**も買えるよ!
- ◎**ジャンル別**で作品も選べて超便利!  
来かねる場合がございます。い場合、お手数ですが再度お問い合わせください。
- ◎二次元編集部**の愉快的Blog**も更新中!

**VALKYRIE**



<http://www.comic- Valkyrie.com/>

**cranberry**



<http://www.cran-berry.com/>

**mille-feuille**  
ミルフィーユ



<http://www.mille-feuille.jp/>

**モバイル二次元  
ドリーム**



<http://www.2d-dream.jp/>



KTCの戦うヒロインオンリー漫画雑誌! 18禁ではないからこそ表現できるドキドキがある!!

二次元ドリームノベルズがアニメにも進出! 新生ブランド・クランベリーをよろしく!!

二次元ドリームノベルズから生まれた美少女ゲーム! 「ミルフィーユ」ブランドにて続々登場!

二次元ドリームノベルズが携帯電話で読める! 携帯サイト限定の書き下ろし小説もあるよ!